はくぶつかんの部屋 9

～忘れられる文化財～

市立博物館では毎年、地域や学校と連携した企画展や講座、体験学習などを行っており、今年で21回目を迎える「ぎのわんの文化財図画作品展」も学校のご理解とご協力のもと、連携した企画展となっております。展示の内容は児童生徒の描いた宜野湾の文化財や、歴史的景観などの図画で、20回目を迎えた昨年度は小中学生合わせて139点もの応募がありました。

ところで「ぎのわんの文化財図画作品展」は、宜野湾にある文化財や歴史的景観、伝承を題材にしていますが、皆さんは宜野湾市に指定文化財と呼ばれるものがいくつあるかご存知でしょうか。実は、宜野湾市には国・県・市指定の文化財だけで25もの文化財が顕在しており、普天満宮や大山のタイモ畑など、指定されていない文化財や、歴史的景観を含めると多くの文化遺産が宜野湾市には残されています。しかし、子ども達が文化財にふれる機会は都市化とともに減少し、地域の文化財を知る機会も少なくなってきています。子ども達だけではなく、大人でも市内の文化財にはどういったものがあるのか知らない方が多いのではないでしょうか。

文化財図画作品展はこうした、市内の文化財を子ども達が知るきっかけとして、また文化財保護の精神を養うために行われていますが、今年も、夏休みの自由課題の一つとして市内の小中学校で取り組んで頂いております。作品応募の対象となる小学校3年生から中学校3年生のお子様をお持ちの皆さん、残り少ない夏休み、子ども達を連れて市内の文化財巡りをしてみてはいかがでしょうか。

市指定文化財「野嵩石畳」

昨年の展示会の様子

作品募集

●対　　象…市在住の小学校 3 年生～中学校 3 年生

●作品内容…市内の文化財や行事、伝承など

【作品展示会】

●期　間…10月3日（水）～10月21日（日）

●場　所…市立博物館　企画展示室

※詳細は市立博物館または各学校へ

問合せ 市立博物館 ☎870-9317

茶ぐわーゆんたく 100

夏の風物詩といえば？

エイサー太鼓の音が鳴り響く、チムワサワサー（心が浮立つ）な季節がやってきました！

エイサーという名称は、踊り手の「エイサー　エイサー　ヒヤルガエイサー」などの拍子からきたとされ、祖先供養を怠ることのないようにという説教念仏です。そのために古くはエイサーと言わず、「七月ニンブチ（念仏）」と言ったそうです。室町時代末期から江戸時代初期にかけて、本土から仏教とともに沖縄へ伝わり、それが首里や那覇の念仏者や京太郎によって広まったようで、我如古には「昔、我如古のウェーキンチュ（豪農）であった屋号仲里と西門が、京太郎を買ってエイサーをさせた。その後村人たちはこれを見覚えてエイサーが始まった。」という言い伝えがあるそうです。

戦前、エイサーを行っていたところは、安仁屋・我如古・宜野湾・伊佐・愛知などで、これらは服装・歌詞とも共通しており、三線弾きや太鼓打ちを囲んで、青年男女が各戸を踊り歩きました。特にエイサー用の服装があるわけではなく、男性は晴着としての芭蕉衣や紺地を着流しに着て帯をしめて裸足、頭には白の鉢巻きを前結びにしました。女性も紺がすりに帯を前結びにして裸足でした。

戦後は伝統的な各戸巡りをする悠長な念仏系より、しめ太鼓や半胴鼓を中心とした鳴り物入りの勇壮なスタイルに変わりました。宜野湾市では1968（昭和43）年からエイサー大会が始まり、第2回まで行われ、参加団体に順位をつけていたそうです。その後名称も変わり、現在では宜野湾市青年エイサー祭りとして開催され、各自治会の青年たちが勇壮な踊りを披露しています。

地域とのつながりはもちろん、本来の意味も忘れずに継承されて欲しいと願います。

▲第2回宜野湾市エイサー大会 優勝記念中原青年会1969（昭和44）年

▲第15回 宜野湾市青年エイサー祭り
普天間三区青年会2011（平成23）年

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係（市立博物館内）
☎870-9317

※宜野湾市制50周年記念写真集に掲載する写真を募集しています！1962（昭和37）年前後の写真をお持ちの方はご一報ください。